

麻機遊水地の自然



遊水地の整備により池沼部が形成され、魚類や水生昆虫が生息するようになりました。さらに、これらを餌とした水辺を休息の場として利用する野鳥が多く飛来するようになり、これまでに遊水地で確認された野鳥は200種以上にもなります。

また治水整備で土が掘り起こされた湿地部では、水田や沼に生育していた数多くの攪乱依存植物が埋土種子より芽生え、600種以上の植物がこれまでに確認されました。その中にはミズアオイ(県版RDB※1:VU※2)やタコノアシ(県版RDB:NT※3)など、多くの絶滅危惧種も見られます。

その他にも、ヨシやオギ群落が維持されている箇所ではカヤネズミ(県版RDB:NT)などが生息・繁殖し、これらの多様な環境の創出は昆虫の種類を増加させ、特に湿地に生息するトンボの仲間が多く見られるようになりました。

遊水地の整備後も、自然環境の保全と利活用の取組みが多くの市民によって行われ、豊かな生物多様性が維持されてきました。これらの価値が認められ、環境省から2001年には「日本の重要湿地500(ウェットランド500)」、2023年には「自然共生サイト」「モニタリングサイト1000(里地)」に指定されています。

※1 県版RDB:「まもりたい静岡県の野生生物」 ※2 VU:絶滅危惧Ⅱ類 ※3 NT:準絶滅危惧

自然環境の課題

水辺環境の悪化

池沼部では、ナガエツルノゲイトウ等の繁殖力の強い外来種が繁茂し、開放水面が減少しています。また、遊水地内へ流入する水が少なく、池沼部の浮泥堆積、湿地の乾燥化が進んでいます。

人と自然との関わりの変化

人と自然とのふれあいの場や機会が減少する中、麻機遊水地はアクセスのよい市内有数の緑地として、将来世代への環境教育や文化継承の場であることが期待されています。

生態系の悪化

植生遷移により、攪乱依存種の生育環境が失われ、環境が単調化しつつあります。また今後は、花の開花時期が大きくずれするなど、気候変動による影響が懸念されます。

協議会の目標

協議会では、2007年(平成19年)に策定された自然再生全体構想で、麻機遊水地の目指す自然の姿を定めています。

いのち 生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機

麻機の自然は原生自然ではなく、歴史的、文化的な人と自然との関わりから生まれた里地山環境です。しかし、戦後、人々の生活様式や社会環境が急激に変化したことにより、かつてあった豊かな自然が徐々に衰退してきています。そのため、**良好な生態系(環)**、**里地里山環境にあった人と自然との共生(和)**、**周辺の自然とのつながり(輪)**を取り戻し、後世に伝えるため、「生命(いのち)にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機」を目指します。

目指す姿を実現するための4つの目標

- 良好な水環境の再生
- 人と自然との持続的な関わりづくり
- 在来種の保全と生態系のバランスを保つ
- 周辺とのネットワークづくり

協議会員の募集

麻機遊水地保全活用推進協議会では、いっしょに活動に協力していただける協議会員の募集を行っています。参加希望される団体、個人の方は事務局までご連絡ください。

アクセス

- ### ■バスのご利用
- 静岡駅前バス停より
- あさはた緑地・第4工区方面(約25分)
乗り場 16番 大浜麻機線(麻機行/麻機北行)
降り場 あさはた緑地 麻機小学校バス停 第4工区 草場バス停
 - 第2・3工区方面(約25分)
乗り場 5番 子ども病院線(子ども病院・静岡神経医療センター行)
降り場 流通センター入口バス停
- ※日曜祝日運休



協議会ホームページ

麻機 協議会

検索

作成:麻機遊水地保全活用推進協議会事務局

■静岡県静岡土木事務所 河川改良課
静岡市駿河区有明町2-20 tel:054-286-9363
http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/tomoegawa

■静岡市 緑地政策課
静岡市葵区追手町5-1 tel:054-221-1251
http://www.city.shizuoka.jp/000_000566.html



いのち 生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地 麻機遊水地 asahatayuusuichi

麻機遊水地保全活用推進協議会



人と生きものの共生を目指す 麻機遊水地 保全活用推進協議会

麻機遊水地は、巴川の治水施設として昭和50年より整備がはじまりました。造成工事で掘り起こされたことにより蘇った、湿地性の植物や、池に棲む魚類、水生昆虫、それらを餌とする野鳥など、多くの動植物が生息・生育する湿地環境となっています。

この自然環境を保全・再生するために、平成16年1月に「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会(現:麻機遊水地保全活用推進協議会)」が設立されました。

麻機遊水地の昔



1958年(昭和33年)頃の写真(現在の第3工区)

麻機遊水地のある地域は、元来低湿地帯で浅畑沼(大沼)や小沼、武平淵といった沼地が散在していました。

その時代の沼にはヨシやマコモが生い茂り、クイナ、バン、ヨシキリなどの野鳥や多くの渡り鳥が飛来し、チョウトンボやギンヤンマなどの昆虫、ギンブナやモツゴ、ドジョウ、メダカ、ウナギ等の魚類が生息していたことが明らかになっています。

また、沼では伝統漁法の「柴揚げ漁」やカモなどの狩猟が行われ、人々は沼から豊かな自然の恵みを受けることができていました。

しかし、昭和30年代後半から食糧増産を目指した土地改良事業などにより、沼は優良な水田として整備され、徐々にその姿を消していきました。

そして1974年(昭和49年)の七夕豪雨を契機に、洪水時の水位を下げるため、水田から遊水地への整備が始まりました。

自然再生の対象区域

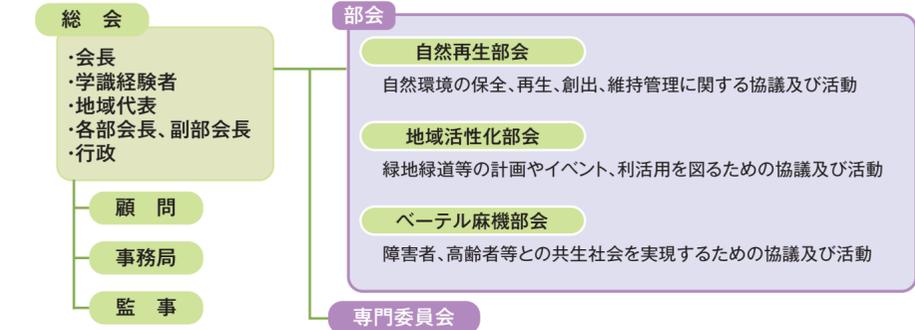


麻機遊水地は、静岡市の中心市街地から北に約5kmのところ、に位置しています。

自然再生全体構想では、比較的良好な湿地環境が残る第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区の総面積約160haと、その上流部の巴川を自然再生の対象区域としています。



協議会の組織体制



総会: 事業計画及び予算、決算、監事及び専門委員の選任又は解任、その他協議会の運営に関する重要事項の審議。
 部会: 協議会会員で構成し、協議会の目的を達成するため、麻機遊水地の保全及び活用についての協議及び活動を行う。
 専門委員会: 総会からの要請に応じ、麻機遊水地の自然再生についての技術的及び学術的知見から助言及び提言を行う。
 顧問: 協議会の運営に関し指導及び助言をするほか、総会に出席し意見を述べる事ができる。
 事務局: 協議会における、運営、会計処理、備品等の購入等に関する事務処理を行う。
 監事: 協議会における会計及び事業の監査を行う。

麻機遊水地のいきもの

植物

陸域ではヨシ、オギなどが多く見られ、湿地では珍しい水生植物が生育しています。



魚類・爬虫類

ナマズ、モツゴ、イシガメ等の在来種が生息していますが、外来種に生育環境を脅かされています。



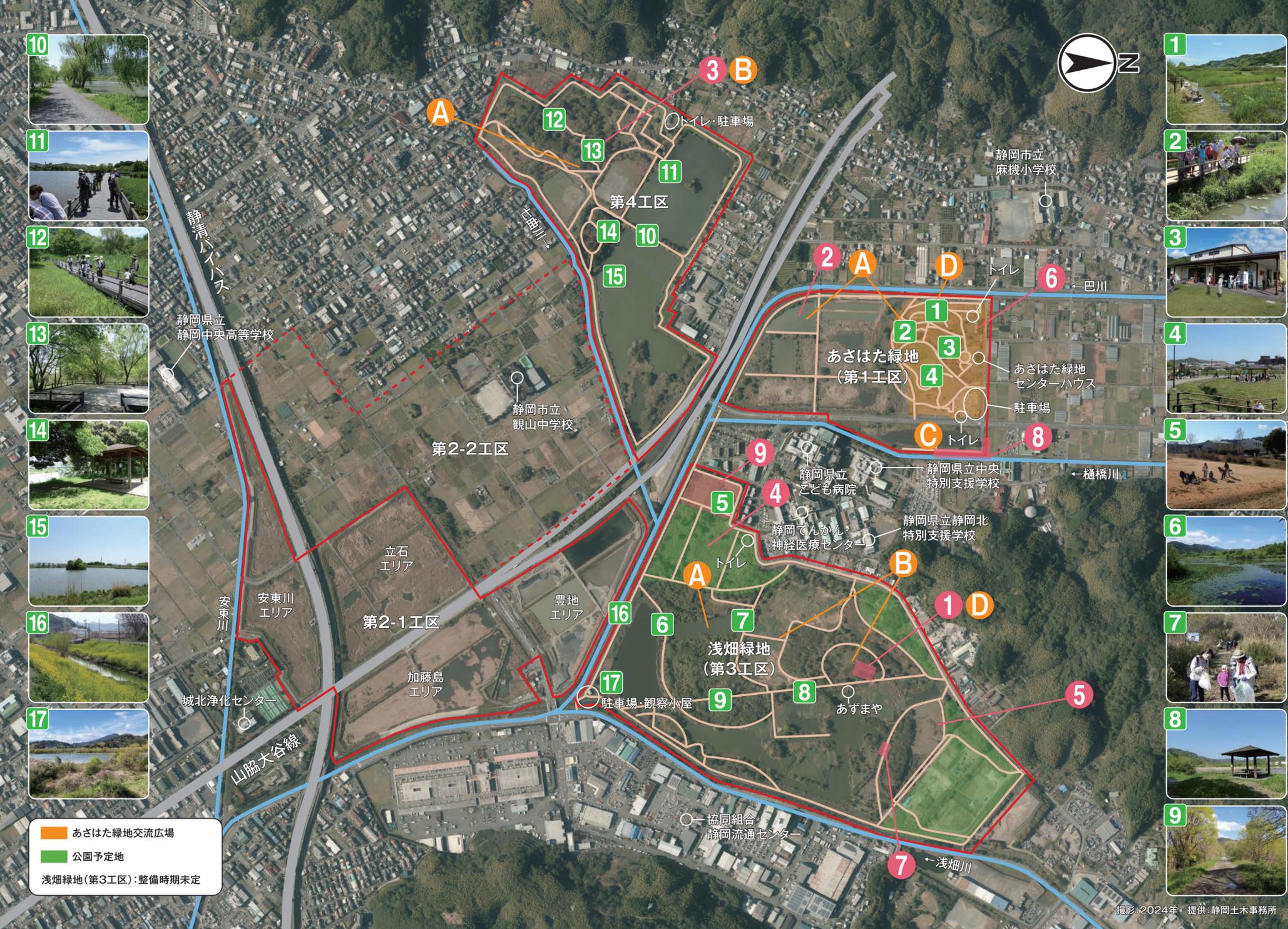
昆虫

池沼、草地、ヤナギ林など多様な環境があるため、様々な昆虫が見られます。



野鳥

年中見られる留鳥から、渡り鳥まで、年間約100種が確認されています。



協議会の取組み

自然再生部会

自然再生部会では、ミズアオイ、オニバス、サクラタデなどの希少植物の再生、保全活動を行っています。また、遊水地の自然の魅力を市民の方々に伝えるために、植物や生き物の観察会を開催しています。



地域活性化部会

地域活性化部会では、遊水地が地域の活性化に繋がるよう、イベントの開催など利活用の取組みを進めています。また、地域の文化継承のため、柴揚げ漁や古民具の体験、民話「沼の婆さん」の紹介などを行っています。



ベーター麻機部会

ベーター麻機部会では、周辺の福祉施設や病院患者の方々が、遊水地で散歩やレクリエーション等の利用ができるよう維持管理を行っています。また、障害者と連携した自然再生活動や維持管理を検討・実施しています。



連携の取組み

協議会では様々な主体との連携を進めており、協議会員、地域住民、企業、行政などが参加する清掃活動や外来種駆除、小学校やふじのくに地球環境史ミュージアムの池を使った教育・保全活動、専門委員と連携した環境調査などを行っています。



● 保全・イベント活動スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●麻機の歴史講座	●クリーン作戦 ●オニバスの歴史講座	●田植え ●麻機の歴史講座	●ハス観察会	●オニバス観察会 ●ふれあい夏祭り	●ミズアオイ観察会 ●麻機の歴史講座	●サクラタデ観察会 ●遊水地フェスタ	●稲刈り		●どんど焼き ●柴揚げ漁 ●火入れ	●遊水桜まつり	
※各イベントの詳細は、協議会ホームページにてお知らせします。											
探鳥会(毎月第4日曜日) →											
古民具体験(毎月第1,3日曜日) →											
保全活動(通年) →											